

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所 の特徴	地域との繋がりを大切に、概ね3km以内の方より利用して頂いております。 その方の生活パターンや習慣・家族状況に応じ柔軟なサービス提供を行う事で、介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らしていける事をお手伝いしています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 手	管理者	廣川 丈人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	包括職員	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	1人	1人	1人	3人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価の項目を踏まえ、日々の支援内容の根拠を理解し、支援に取り組む。	自己評価項目を熟す為支援をするのではないが、自己評価の項目への理解度が低い状況もあった。 新卒採用者もいる中で、個別に項目の内容について説明をする時間を設けた。	事業所自己評価の職員の皆さんで検討した「できていない点」が「次回までの具体的な改善計画」に反映されると、より良い計画になるのではないかと思います。 「業務に追われてしまう・・・」は共感します。コロナ禍で心身共にさらに大変かと思いますが、サービスの維持、工夫を凝らしておられると感じました。 今回の意見を集める際に、この項目は抽象的な内容も多い為、最期に確認するといいかも知れない。	事業所自己評価の理解を深めるように学習会を開催する。また、職員間でも教えられるように自己評価担当の育成を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	センターを活用できる物、福祉関係の内容の看板を設置しセンターの存在を提示していく。	オレンジカフェの開催が出来ない状況が継続する中で、情報発信が出来るようにセンター入口に看板を設置することが出来た。内容は福祉関係を中心にしているが、興味を持てるように簡単なレシポを載せるようにした。 設置は天気の良い日にしか置かず、紙自体も小さい為、アピールするには弱かったかもしれない。	入口がわかりにくい部分もあるので、看板を設置することは宣伝にもなるので良い取組みだと思う。 今回は出入りしている業者のアンケートを添付してもらったので、実際に訪問できない状況であっても環境面を評価しやすい内容だった。資料を用意してもらうのは手間だと思うが良い取組みだと思う。	感染症対策を継続して行くなかで、センター内外でも季節感を感じられる装飾を施し、環境美化に努める。
C. 事業所と地域のかかわり	様々な情報を得られるように地域の方、ご利用者の近隣の方との関わりを積極的に行っていく。	オレンジカフェの開催が難しい状況が継続しており、近隣の方との意見を交換できるような時間が持てなかった。日々の挨拶を中心に関わりを持てるように心がけてきた。	千手事態の近隣の方との関わりはオレンジカフェの開催が難しい状況もあるので、挨拶等が関わりの基本になるかと思う。開催が出来るようになるまで、少しでも関わりを持てるように継続して欲しい。	近隣の方と少しでも関わりが持てるように、地域に出る活動(清掃など)を企画・実践する。 時期を見てご利用者と散歩を行う機会を設け、地域との関わりを持つ。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	地域包括支援センター、民生委員の方を始め、地域の方の情報共有を行っていく。	ご利用者の住まれる町内会の方や、近隣の方とお話をする機会を持つことが出来た。ご利用者の認知症の状況などをお伝えすることや、支援以外の時間帯の見えない部分の新たな情報などを教えて頂ける機会となった。 民生委員や地域の方との関わりを持ち、ご利用者の情報共有を図るようにしており、介護保険だけではなく関わりを持てるように関わりを持つようしてきた。	住み慣れた地域、自宅ですべて暮らせるために、サービスに地域資源を有効に併用しながら支援することが望ましいと思います。そのためには地域の関係者や支援者と良好な関係づくりはとても重要です。 日々の業務が大変かと思いますが、この積み重ねにより利用者や職員両者がウインウィンとなるのではないかと思います。	ご利用者の生活を支援する上でキーパーソンとなる地域の方と繋がりを持ち、情報共有を行えるようにする。 地域包括支援センター、民生委員の方と定期的に連絡を行い、情報共有を行う。
E. 運営推進会議を活かした取組み	担当者会議、事前訪問へ職員が参加できるように調整を行う。基礎的な内容の研修の場を設ける。	ミーティング時に研修の機会を設ける事が出来た。研修内で社会資源についての内容も取り入れ、職員間で地域の社会資源を学ぶ機会を作った。	運営推進会議で顔を合わせる機会が久しぶりに設ける事が出来た。地域としても関わりが持てない状況が続いており、行事も開催できていない。これを機にセンターを活用する方法などを地域へ還元して欲しい。	介護職員の運営推進会議に携わる機会が少ない為、順々に参加出来るように調整を行う。
F. 事業所の防災・災害対策	災害時のセンターの使い方を周知する。 災害時でも地域と事業所が互いに協力できるように普段の関わりを大事にする。	年に2回の避難訓練を実施しているが、地域の方に参加して頂ける機会はなかった。今後はセンター全体で避難訓練の設定を検討し、地域の方にも参加できるように企画を検討したい。	町内の方々にセンターの災害時の活用方法を周知することは大事なので、ぜひ共有してもらいたい。地域としてもセンターの活用を把握し、活用につなげたい。	福祉避難所として活用して頂けるようPRのポスターを作成する。災害別など、詳細が分かる内容を検討する。 感染対策を行った上で機会があれば町内会などの会合に参加して、センターの活用について説明を行う。